



# 水産だより 千葉

(発行者)

公益財団法人 千葉県水産振興公社

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-3-1

TEL 043-222-3181

FAX 043-222-2440

## 水産振興公社の事業活動

日頃より、当公社の活動に御理解・御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本年度も上半期を過ぎましたので、これまでの活動状況をご報告いたします。

栽培漁業の推進にしましては、ヒラメが109万尾、マダイが118万尾、マコガレイが46万尾、クルマエビが675万尾と計画以上の種苗放流を行うことができました。近年、生産が不調であるアワビにつきましては、計画に近づけるよう懸命に生産しているところです。

ノリ種苗は9月に配付し、各地で採苗が行われました。今後の生産が、前漁期のように順調に推移することを期待いたします。

アオノリ母藻やワカメ・ヒロメも順次配付の予定です。

### (特集)

#### クルマエビの種苗放流事業

東京湾漁業の対象魚種であるクルマエビ種苗675万尾(平均全長31㎢)を東京湾地域栽培漁業推進協議会と協力して7月と9月に盤洲・富津干潟から館山湾にかけて放流しました。

種苗生産は、当公社富津事業所新富支所で採卵から飼育まで行っています。飼育水は、隣接する火力発電所の温排水を利用しています。

近年、千葉県も他県と同様、親エビの入手が難しくなり、大きな課題です。

放流場所は、稚エビが生育しやすい干潟を中心に、放流直後の被害が少なくなるよう潮時を見な

がら、また、種苗が傷まないようホースを使用して放流しています。

漁業者からは「放流効果の実感がある」、「水揚げが増えてきた」などの声も聞こえてきていますので、近い将来には、千葉県産の親エビを用いた種苗生産が安定的にできるようになることを期待したいと思います。



種苗生産用の親エビ(約20cm)

令和4年度 クルマエビ種苗の放流計画・実績

放流場所	(千尾)	
	計画	実績
内湾地区 (盤洲干潟～富津干潟)	5,230	5,983
内房地区 (保田～館山までの各地先)	770	770
合計	6,000	6,753



放流種苗

## 東安房漁協 定置漁業の新たな取組

東安房地域定置もうかる漁業に係る中央協議会(水産業・漁村活性化推進機構主催)が8月30日に東京都内で開催され、令和元年度から3か年間の実績の検証が行われました。

東安房地域定置漁業の改革計画は、事業実施者の東安房漁業協同組合や関係者の真剣な検討を経て作成され、近年の相次ぐ大型台風の来襲や海況変動という厳しい環境のなか、定置漁業の周年操業化を目指して、新素材の化繊一重側張や改革型漁船の導入等による省力・省コスト化及び作業環境や安全性の改善等を図るとともに、流通販売について地元加工業者との連携や朝獲れ鮮魚の高速バス利用による販路の多角化等の取組による収益性の向上に取り組もうとするものです。

これまでの成果は、水揚額や収支等は計画を大きく上回り、取組の一部は近隣の定置漁業にも波及しています。

中央協議会では、多くの出席委員から高評価をいただきました。

今後、周年操業化に向けた取組が実現することにより、更なる発展が期待されます。



東安房定置漁業の操業の様子

## 千葉県第8次栽培漁業基本計画の策定について （千葉県農林水産部水産局漁業資源課）

県では、栽培漁業を計画的かつ効率的に推進するため、「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」（通称「栽培漁業基本計画」）を策定しています。

このたび、前計画が本年3月末に終期を迎えたことから、国の栽培漁業基本方針及び漁業者の皆様からの意見等を参考として、令和4年5月18日に第8次栽培漁業基本計画を策定しました。

第8次計画では、栽培漁業対象種として、これまでのマダイ、ヒラメ、マコガレイ、アワビ、ハマグリ、クルマエビに加え、第7次計画において基礎的技術が開発された「トラフグ」を追加しました。今後は、本計画に基づき種苗の生産及び放流を行うとともに、漁獲管理との一体的な取組などを推進し、本県沿岸の水産資源の維持・増大を図ってまいります。

### 種苗の放流数の目標 （第8次栽培漁業基本計画） による放流計画

魚種 （大きさ）	放流数
マダイ （60mm）	100万尾
ヒラメ （80mm）	94万尾
マコガレイ （40mm）	46万尾
アワビ （25mm）	160万個
クルマエビ （30mm）	600万尾

※ハマグリとトラフグは、量産技術開発期であることから、放流数目標の明示なし。

## 東京湾の環境改善に向けた取組について （千葉県漁業協同組合連合会）

東京湾は豊かな海として古来より漁業生産の場として多くの漁業者を利用され、海苔養殖、採貝漁業、漁船漁業が盛んに営まれてきました。

しかしながら、戦後の急激な経済成長とともに浅瀬や干潟の埋め立てや汚濁排水の流入等によって漁場環境が悪化し、水産資源の減少を招きました。

その後、排水施設の整備が進み、水質は一時期より改善し、見た目はきれいな海になったものの、栄養塩の減少など水産生物が生息するには厳しい海となつてまいりました。

そのため、東京湾漁業の将来に対して、危機感を共有する関係都県（東京・神奈川・千葉）の漁連が中心となつて、東京湾を再生するための取組を推進する組織「東京湾関係漁連・漁協連絡会議」を令和2年4月13日付けで設立いたしました。

当連絡会議の活動の一環として、東京湾の環境に関する国等の取組状況や他県の動向について、講師を招き研修会を開催しております。

今年度は、4月11日に第2回の研修会を開催し、環境省や水産庁、千葉県水産総合研究センターより、それぞれの取組みや研究結果について説明をしていただきました。

千葉県からは、市川市から富津市までの各組合長等にご参加いただき、東京・神奈川の参加者を併せると、総勢50名の方々にお集まりいただきました。

今後も東京湾の環境改善に向けて、この組織を中心に関係機関と連携しながら取組んでいく予定です。



熱心な研修会参加者

## 獲れたての美味「ブリ」船上活きメ （鴨川市）

定置網漁業は、海の豊かさを守る持続可能な漁法として再評価されていますが、鴨川市漁業協同組合では、昭和38年に定置部が設置され、現在も、2ヶ統で操業しています。

定置網で獲れたブリ、サバ、サワラなどを、船上で血抜き、活け締めし、「船上活きメ」として、約20年前から出荷しています。船上で活け締めされた鮮魚は、お刺身で食べてみるとその差は歴然で、臭みがなくコリコリとした食感、そして濃厚な旨みは、一度食べたなら忘れられないと大好評を得ています。



「船上活きメ」ブリ

## 持続的な資源利用について（銚子水産事務所）

令和2年12月に新たな漁業法が施行され、TAC（漁獲可能量）による漁獲量管理を実施する魚種の拡大が検討されています。対象候補の一つであるキンメダイは、銚子市外川地区で水揚げされる主要な魚種です。漁業者は30年以上前から自主的に資源管理を行い、近年は良好な資源状態が続いています。また、ただ獲る量を減らしては、資源は守れても漁業者の生活が立ち行かなくなってしまうため、漁業者自らがキンメダイをPRし、年々単価を向上させてきました。こうした資源管理と単価向上を両立させた漁業者の取組は、今後漁獲量による資源管理を行う場合に、他の魚種にも導入の検討が必要と考えています。



標識放流（生態解明のため、毎年実施）